

県高校新人大会 バドミントン ウェイトリフティング

10月19日(金)から21日(日)の間、宮古島市総合体育館等で県高校新人バドミントン競技が開催され、本校男子バドミントン部がダブルス優勝(新城聡斗君(しんじょうあきと 2海技) 山城幸弥君(やましろうこうや 2-6)、シングルス準優勝山城幸弥君とベスト8中村光稀(なかむらこうき 2-8)という快挙を成し遂げました。

キャプテンの中村君は試合を振り返り「団体準決勝でシングルスが獲れなかったことが悔しい」とし、九州大会に出場するチームメイトへ「自分の分まで頑張っていて欲しい」とキャプテンらしく潔い言葉でエールを送っていました。



新城君と山城君はダブルス優勝の快挙を成し遂げましたが、両君とも「(試合に)負ける気がしなかった。また、勝つことしか頭になかった」と誇らしく語っていました。九州大会への抱負として新城君は「ベスト4が目標です」山城君は「(自分の力が)どこまで通用するか試してみたい」とありました。

シングルス準優勝の山城君ですが、顧問の野原先生から決勝戦当日は5試合を消化し計6時間を越える死闘であったこと。さらに山城君は既に体力の限界を超えたと判断し、残念ながら棄権という苦渋の選択をせざるを得なかったと指揮官は冷静に、しかし自分のことのように悔しさをにじませながら報告していました。

3名とも「目標は来年のインターハイ!!」ときっぱり。毎日の厳しいトレーニングに耐える心の強さを維持できる理由を「負けて悔しかったことを思い出す」「支えてくれている人のため」「試合のきつさを思い浮かべて練習で自分を追い込む」などと熱く話してくれました。



10月28日(日)本校体育館で県高校新人ウェイトリフティング競技が開催され、本校1年海洋技術科島袋泰洲(しまぶくろたいしゅう)君が81kg級で準優勝、九州大会への出場を決めました。

記録はスナッチ92kg、クリーンアンドジャークが113kgで、本人の自己ベストはスナッチが95kg、クリーンアンドジャークが117kgとのこと。このことから「試合で2位になったことよりも記録を更新できなかったことが悔しい」と、よっぽど悔しかったのか唇を噛みしめながら話してくれました。

「九州大会は初めての県外大会で緊張していますが、自己ベストを更新することを目標に、最終的にはインターハイ出場が目標なので、自分の力をその場で試したいです!!」と力強く澄んだ目で抱負を語ってくれました。

顧問の久保田佳乃先生は島袋君のことを「ネットで有名選手の動画をチェックしそのトレーニング法等も取り入れて筋トレに活かす。まじめで、今時SNS世代の、非常に前向きな選手です」と評価し、我が事のように喜ぶ姿が印象的でした。